



■「双京構想」勉強会について

京都の産官学の有識者で構成されている「京都の未来を考える会懇話会」などが提唱する「双京構想」の進展へ向けて、都草はNPO法人としてその活動を支援する方針を平成27年度の定期総会において発表しました。総会では満場一致で承認されましたが、双京構想については「よく分からない」「慎重に」という声もありましたので、平成27年6月20日（土）、上京区役所において都草主催による「双京構想」の勉強会を下記のとおり開催しました。

1. 「双京構想の概要」の説明

京都市総合企画局総合政策室 京都創生部長 大滝 洋 氏

2. 講演「大正（京都）大札の歴史的意義」

京都産業大学名誉教授 モラロジー研究所教授 所 功 先生

3. 質疑応答・意見交換会

勉強会の開催にあたっては、京都市のご協力を得、また大変お忙しい中を所功先生にご講演をお願いしました。深く感謝申し上げます。

当日は60名を超える皆様にご出席いただき、講演の後に質疑応答とアンケートを実施しました。中には双京構想には「関わるべきではない」というご意見もありましたが、全体としては「理解が深まり、双京構想を支援・推進していくべきである」という意見が多数を占めました。（理事長 坂本 孝志）

尚本勉強会につきましては、翌日の京都新聞に掲載されました。



■ 旧議場の公開に伴う事務所の新体制について



都草は来年創立10周年を迎える事となりました。

会員数は今や380人を超える大所帯となっております。この繁栄は皆様の都草への熱い思いとご支援、ご協力の賜物と存じております。新年度より事務局長の重責を仰せつかりました。少しでも都草が居心地の良い場になるよう、そして一人でも多くの方にご参加頂き交流を深めて頂けるよう微力ながら頑張っており、今後ともご指導ご協力よろしくお願い申し上げます。さて、都草の活動は今までの事業に加え新たな「お出かけ講座」など着実にその成果を上げてまいりました。10周年を迎えるに当たり、今後さらにこれまでの基盤の上に、さらなる飛躍のために新たな挑戦と改革を進めていきたいと思っております。

今年度より事務所の開館日及びメンバーが変更されております。旧議場の案内メンバーが増え、公開日は火曜日から金曜日と土曜日は第1、3、5で月曜日は休館となりました。（日曜日は従来通り休館です）お間違いのなきようよろしくお願い申し上げます。なお旧議場は9月14日から第2期工事が始まりますので、一般公開はお休みになります。

観芸祭（10月24日～11月8日）の期間は公開されますのでこの期間に是非一度お越しくださいお待ちしております。秋以降事務所を月一度サロンとして活用したいとも考えておりますので普段あまり行事などにご参加頂けない方も気軽にお越し下さい。（事務局長 藤井久美子）

◆◇ 第 5 回 研修バス旅行(高野山・慈尊院)を終えて ◇◆



4月22日の研修バス旅行のテーマは「開創1200年天空の聖地、高野山とその山麓を訪ねる」でした。最初に慈尊院を訪ね、空海の命日に因んで21年に一度しか開帳されない秘仏の弥勒菩薩像(醍醐寺の国宝薬師如来の造立でも知られる会理仏師作と伝わる貞観仏)を拝観し、丹生神社に参拝。次に向かった高野山・金剛峯寺は海拔900メートルにある33万坪の一大盆地で山の姿は八葉蓮台の形をなすという。山門前は枝垂れ桜が満開

でした。我国最大の石庭、京の白川砂も使用されている蟠龍庭を拝観。昼食後は自由行動。私達数名は中江理事の説明を受けながら壇上伽藍を見学し、根本大塔の大きさに圧倒されました。又金堂では、高村光雲作の秘仏薬師如来を参拝。その後、今回どうしても行きたかった霊宝館で快慶作孔雀明王、諸尊仏龕、運慶作八大童子などと対面出来ました。特に恵光、矜羯羅、制多伽の三童子の表情には感激しました。

私は幼少の頃より祖父に連れられて、近くの三十三間堂や泉涌寺、東福寺などによく行きました。その為、仏像には大変興味があり、基礎知識の本、仏師や研究家の論文等も相当数読み、自分なりに消化しているつもりです。2011年4月には、第一回日本仏像検定に100点満点でA級合格しました。最近の仏像に関する書物などを読みますと、仏像の“像”に軸足を置くものが多くて、“仏”が忘れられているようです。仏像は“観る”にとどまらず、“感じる”ものであるべきだと思っています。

今回は時間の都合で奥の院へは行けませんでした。多くの方が参詣されました。晴天に恵まれ、会員の皆様との交流も得られ、多くの仏像にも出会えました。次回の研修を楽しみにしています。(会員 加藤 一男)

◆◇第14回 文化交流会「暗闇の奇祭‘あがた祭’って?’ ◇◆



6月5日の深夜から翌6日未明にかけて、縣神社のあがた祭に行って参りました。まずは、とり清本店において、酒井歴探南部部長からあがた祭の基礎知識のレクチャーを受け、その後、宇治へ移動しました。おりしも冷たい雨がそぼ降る中、奉賛会の梵天と雄獅子の渡御、また時間を違えて神社の梵天渡御が行われました。夫々手順が異なる渡御の様子や、ハイライトである「ぶん回し」の習熟度の差を見ることができ、趣の深い文化交流会でした。(会員 高橋 浩次)

・前回記事文化交流会「私のお宝」のタイトルが第14回になっていました。第13回到訂正しお詫びいたします。

◆◇ 祇園祭ガイド研修会 ◇◆

6月10日(水)1時から、ひと・まち交流館 京都でガイド研修会が行われました。祇園祭はガイドの依頼も多くありますが、案内のできる方が限られています。ガイドのレベルアップを目指しての研修会です。多くの知識は糧になり、ロールプレイングが自信になります。芦田理事が古文書などを使い祇園祭の歴史、籤、縄がらみの話をしました。特に縄がらみの写真は美しく正に芸術だと思いました。小松副理事長と私は前祭・後祭の特徴や見どころを解説しました。真木の下部の網隠しの中にも鈴やお札が飾られているなどの貴重な写真が注目を集めていました。最後に私から「案内する時はお客様の方を向いてお話してください」と基本中の基本をお願いして研修を終わりました。(専務理事 田村 光弘)